

令和 8 年度 第 1 回長門市介護人材確保協議会 議事録

1 日 時 令和 8 年 7 月 22 日（水曜日） 1 3 時 3 0 分～ 1 5 時 1 0 分

2 場 所 長門市役所 4 階 会議室 1

3 出席者 別添委員名簿のとおり（上田委員欠席）

4 議 事

（1）開会 高齢福祉課長あいさつ

（2）自己紹介

（3）会長・副会長選任

立候補がないため事務局案を諮り承認を得る。

会長：光井委員 副会長：大楽委員

（4）報告・協議

1) 令和 6 年度、7 年度の介護人材確保に向けた取組について（報告）

<事務局より説明>

- ・奨学金返還補助制度について説明
- ・県はやまぐち移住支援金制度について説明
- ・長門夢・みらいフェスタへの参加について報告
令和 6 年度はパンフレットを配布
令和 7 年度はブースを出展し、高齢者疑似体験を実施
- ・NPO 法人つなぐ開催のイベント参加の報告

<産業立地・戦略推進課より説明>

- ・人材確保・副業人材活用等支援事業費補助金について制度の説明と実績を報告
 - ① 求人情報発信支援…R6:20 件申請（うち介護事業所 1 件）、R7:12 件申請（うち介護事業所 2 件）
 - ② 外国人材雇用・活用事業…R7:6 件申請（うち介護事業所 0 件）
 - ③ スポットワーカー活用事業…R7:申請なし
 - ④ インターンシップ事業…R6:2 件申請（うち介護事業所 0 件）、R7:2 件申請（うち介護事業所 0 件）
 - ⑤ 副業・兼業人材活用事業…R6:3 件（うち介護事業所 0 件）、R7:1 件（うち介護事業所 0 件）
- ・省力化機器導入補助金について制度の説明と実績を報告
R6～R7:36 件（うち介護事業所 1 件）、R7.8～:35 件（うち介護事業所 2 件）、
R8.3～:48 件（うち介護事業所 1 件）

<事務局より萩公共職業安定所の取組と実績を代理にて報告>

- ・山口福祉人材センターと連携した福祉のしごと相談会（長門会場）
R6:2 名参加→採用 0 名、R7:6 名参加→採用 1 名

- ・福祉関係の仕事を希望される方と企業の出会いの場を提供する介護デイ（長門会場）
R6:4 事業所・10 名参加→採用 1 名、R7:6 事業所・8 名参加→1 名採用
- ・ハローワーク長門で月 1 回のミニ面接会を開催
R7 年度介護事業所の参加なし。

2) 令和 8 年度介護人材確保に関する取組予定について（協議）

<事務局より説明>

- ・令和 7 年度と同様の取組をブラッシュアップして実施する。
- ・介護職への理解促進として、二十歳のつどいでリーフレットを配布したい。
- ・令和 9 年 10 月導入の介護情報基盤の理解促進を図っていきたい。

<産業立地・戦略推進課より説明>

- ・人材確保・副業人材活用等支援事業費補助金の制度内容等の変更点について説明

【変更箇所】

- ・求人情報発信支援の内容に、「インターンシップの企画制作に係るコンサルティング業務やインターンシップサイトへの掲載に係る費用」が追加
- ・予算が増額された
- ・上限額が 1 事業者 80 万円→65 万円に減額

<事務局より萩公共職業安定所の取組予定を代理にて説明>

- ・引き続き、令和 7 年度と同様の取組を実施
- ・新規取組として、「医療・福祉をささえる求人充足プロジェクト」を実施

医療・福祉分野の事業所に対し、事業所訪問等によるアウトリーチ支援をきょうかするとともに、求職者へのマッチング支援をさらに拡充することにより、ハローワークにおける求人充足支援の強化を図るもの。

協議① 長門夢・みらいフェスタの出展内容について

（事務局）

・小学生をターゲットとした市内事業等と協働して行うキャリア教育イベント。今年度で 3 回目の開催であり、昨年度は本協議会とながと社福サポートと共同でブースを出展し、子どもたちが介護職に興味を持ち将来の選択肢の一つとして考えるきっかけとなるような場にしたいと考え、高齢者疑似体験ができるブースを出展した。今年度もながと社福サポートと共同で出展し、広く福祉を知ってもらうため、高齢者疑似体験に加え、障害者就労施設での作業体験を実施したい。

（委員）

異議なし

協議② 介護人材確保に係る研修会の内容について

（事務局）

・令和 6 年度は介護人材確保に係る取組を実施している講師を招聘し、市内介護事業所に向けた研修会を実施し、しごとの魅力について講和いただいた。

【令和 8 年度のテーマ（案）】

入職 5 年以内の方を対象とした介護職員の定着を目的とした研修会を開催したい。

（委員）

異議なし

協議③ 新たな取り組みについて

（事務局）

・第 10 次長門市高齢者健康福祉計画策定のために実施した事業所と法人へのアンケート結果を報告

⇒アンケート結果をみると、多くの事業所・法人で「人材の確保が困難」と回答、現在の職員数についても半数以上が「不足している」と回答しており、介護人材の確保が喫緊の課題となっている。

また、人材不足に対して必要だと思う行政の支援として、「資格取得に係る費用の支援」が一番多く、経済的支援が求められている。

・山口県や県内他市の介護人材確保支援事業について紹介

⇒県内自治体の取組事例としては、介護資格取得費の補助や就労支援金を支給し、多くの自治体が介護人材確保における独自の支援を行っている。

・介護人材を確保するために、長門市ではどのような取り組みをしていくべきか委員のご意見を伺いたい。

【意見交換】

（委員）

・他産業から介護の資格を取得して介護職に転職しようとしている方にとっては費用が高い。事業所に対してではなく、個人に対して何か補助があれば良い。

（委員）

・介護職の資格は県やハローワークの制度をうまく活用すれば費用負担は少ない。一方で、それぞれの制度内容や申請の仕方などの流れが分かりづらいので、分かりやすくお知らせしてあげるといい。補助については充実していると思う。

・介護職に転職される方は年齢が上の方も多いので、SNS での周知は難しい。

（事務局）

・分かりやすい周知の仕方ができればそれだけでも違ってくるかもしれない。

（事務局）

・他の市では就職支援金として、1 年勤めたら 10 万円支給しますという補助もあります。

（委員）

・ある程度継続したら支給する方がいい。

実務者研修を受けるためにはある程度の勤務年数が必要なので、働けば返ってくる制度の方が雇う側としては良い。資格を取って正社員にもなってもらえるし、介護士を続けようと思う。

（事務局）

・補助金の他にも何かこういう取り組みをしたらもっと介護人材に繋がるのではないかなど、アイデアがあれば教えていただきたい。

(委員)

・ヘルパーは以前、他の職種より賃金が良く、時給がいい仕事で魅力的だったが、数年前に介護報酬の改定により引き下げられた。今は他の職種の時給が上がってきたため、ヘルパーの魅力がなくなっているのだから報酬をあげてほしい。

(委員)

・事業所に就職する人は、ある程度事業所がいろんな制度を活用して補助している。その前の段階の人には何かサポートあったらいいかもしれない。

・即効性で言えば就職祝い金。段階的な仕組みにするといい。

(委員)

・若い方がいない。一番若い方でも30歳後半ぐらい。

(産業立地・戦略推進課)

・県内の大学からのインターンの事業があるので、受け入れ可能な事業所があればご協力をお願いしたい。

3) そのほか

(事務局)

次回協議会の開催は3月を予定。

4) 閉会